



とぎのこえ Good News for Japan



四月は、いろいろな新しいことが始まる季節です。木々は新しい芽を吹き、入学、就職と、たくさんの方が新しい出発をします。新しいことが始まる、ということ、古いものが終わる、ということ、新年に、私たちは「明けましておめでとう」と挨拶をしますが、これは、古い年、前の年が無事に終わって、

古いものが終わって…

吉田 眞

「おめでとう」という意味なの。「梅雨が明ける、喪が明ける」というように、「明ける」とは、「終わる」ことを意味します。

私たちの生き方においても、これまでの生活を「終え」(忘れて)、新しい出発をしたい、と思うことがあります。今、まさにそう感じておられる方がいるかもしれない。人生のある時期、あの時に戻ってやり直せたらどんなにいいだろうと思うこともあるでしょう。聖書は、もう一度戻って、やり直すことの可能性と必要性について語っています。聖書に、一人のユダヤ人が登場します。彼は、

「……あなたが神のものとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのであれば、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです」と語りかけます。イエス様はそれに、こう答えます。「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と。ユダヤ人はさらに、「年をとった者が……もう一度母親の胎内に入って生まれることができますでしょうか」

と問います。イエス様は、「肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である」と答えました。(以上ヨハネによる福音書3章より)

まるで禅問答のようです。イエス様の真意は、人は生まれのままの状態では、天国に行くことができないが、その心の状態が、終わった(明けた)時、新しい出発をすることができるといふことだったのです。「少しずつ」変わっていくのではなく、「完全に」入れ替わる必要と可能性がある、と語っておられます。

汚れた水をきれいにしたいと思う時、そこに、きれいな水を加えていけば、だんだん透明さが増すかもしれません。しかし、それは、一〇〇%きれいになつたとは言えないのです。汚い水を全部捨てて、きれいな水を入れなければなりません。人はどんなに「良いこと」をしても、きれいにすることはできないのです。それまでの古い自分を全部捨てて、新しい出発をしなければならぬのです。

本当にそんなことができるでしょうか。

聖書はこう宣言します。

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(コリントの信徒への手紙二 5章17節) 聖書の別の翻訳(リビングバイブル)では、この部分を「だれでも、クリスチャンになると、内側が全く新しくされます。もはや今までと同じ人間ではありません。新しい人生が始まったのです」と、訳しています。つまり、古い生き方を終え(捨て)て、新しい人生を始めるならば、「今までは同じ人間ではなく、新しい人生を始めることができる」との約束なのです。

この新しいことが始まる季節、もし、古い自分と別し、新しい自分に変えられたい、と願うなら、キリストの言葉、聖書に触れ、教会に足を運んでみてはいかがでしょう。古いものに終わりを告げるために。

(救世軍士官(伝道者))

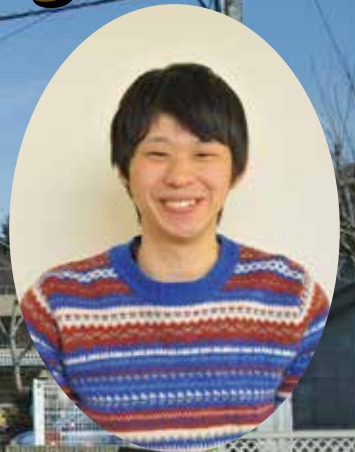
謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈インタビュー〉

神様は弱さを用いてくださる



救世軍自省館



まなべ つぐみち
眞鍋 嗣道さん

東京都清瀬市。結核医療と病院の街と言われ、市の南西部に大小様々な病院が集まっています。その一角に、アルコール依存症者支援の働きをおこなっている救世軍自省館があります。ここで支援員として働いている眞鍋嗣道さんをお訪ねしました。

―眞鍋さんは自省館に勤めて何年になりますか。

眞鍋 入職して六年目になります。職員は二十七人、利用者は現在、五十人前後で、平均年齢は六十五歳前後です。私は、五人の方を担当して、お酒を飲まないで生活する、生活支援と日中活動支援のお手伝いをさせていただいています。

―具体的にはどのような働きですか。

眞鍋 まず、「お酒によって狂ってしまった生活サイクルを整えるため、朝起きて、三食規則的に摂り、夜寝る」という生活を支援します。アルコール依存症だけではなく、様々な合併症をもった方も多いため、服薬の管理・指導、通院の同行、また、作業やレクリエーションを通して集団生活を送れるよう、働きかけを

しています。私は、お一人ひとりに、ここに安心できる場を見つけて、「回復」をしていただきたいと思っています。

―「回復」とは……？

眞鍋 回復とは「霊的成長」だと私は思っています。今までの自分中心の生活から離れて、新しい生き方をやる、つまり、自分ひとりの力ではどうすることもできないことを認め、自分を越えた大きな力に生き方を託すことです。また、共同生活の中で、何かの行事を楽しんでんだり、一つのことを皆で作って達成感を味わう、ということも霊的成長の

一歩一歩なのだと思います。そのために、まず、利用者さんと良いコミュニケーションをとるよう努めています。

―「良いコミュニケーション」は大切ですね。

眞鍋 はい。この働きを通して、私は日々、自分の弱さ、力の足りなさを突きつけられ、自分自身、本当に何事も神様により頼んでいくしかない、と思わされています。アルコール依存症の方だけでなく、どんな人にも自分を越えた大きな力―神様が必要なのだと思います。

ています。

―眞鍋さんはいつクリスチヤンになられたのですか。

眞鍋 本当の意味で神様を信じたのは、大学三年の終わりです。

私は救世軍の伝道者の家に、姉と弟の三人きょうだいの長男として生まれ、ものごころついた時から神様のこと、聖書の話を聞いて育ちました。日曜日は小隊（教会にあたる）でおこなわれる日曜学校や聖別会（礼拝）に出るのが当たり前の生活でした。中学になっても、部活の試合がある時以外は、日曜の礼拝に出ていました。

私が中学を卒業した年、両親が大阪の小隊に異動になりました。姉はすでに家を離れて独立しており、私と弟が両親と大阪に行きました。入った高校では、私の家庭のことを知っている人は誰もいません。私は一切、家のこと、救世軍のことを学校で話しませんでした。友達を家に呼んだりもしませんでしたね。

―どうしてですか。

眞鍋 小学校の時、ちよつとだけでしたが、クリスチヤンの家庭であることを理由に、いじめに遭ったこと

があつて、それがトラウマ（心の傷）になっていたのでと思います。

そして、大学二年になった時、両親が東京の小隊に異動になり、私は大阪で一人暮らしになりました。両親と離れることで、何か頭の重しが取れたような解放感を経験したことを覚えています。それから、徐々に小隊に行かなくなり、礼拝に出る必要性も感じなくなり、やがて、めちゃくちゃな生活になりました。

―めちゃくちゃな生活？

眞鍋 酒は飲む、煙草は吸う、そして、ここでは言えないようなこともたくさんするようになりました。カラオケで大騒ぎをしたり暴れたりして、出入り禁止になった店も何軒ありました。もちろん、大学の授業にも出なくなり……。当時



高校生の時(向かって右端)

は、酒と煙草が自分のエネルギーのようになっていました。

そのうち、より強い刺激を求めようになり、何かと私を心配してくれていた姉に借金をして、一週間に七十万円、遊びに使ったこともありました。

—そのようなことをして、楽しかったですか。

眞鍋 最初のうちは刺激があり、楽しんでいました。でもその一方で、自分のしていることは健全ではないという認識はずっとありました。

そのうち、(明日、自分がどうなるかわからないのに、何で勉強したり、将来のためにお金を貯めたりするのだろう)と思うようになり、ました。そればかりでなく、だんだん、生きていく意味すらわからなくなりました。(何で生きていくんだろう、何で生きなくてはならないんだろう。死んでもいいかな)でも、死ぬ勇気もありませんでした。

—辛かったですか。

眞鍋 はい。虚しい日々でした。そんな時、姉がインターネットの上で仲良くあったクリスチャンの方が、私を訪ねてくれたんです。

私より十歳くらい上の方だったと思います。

その人は、神様とか、聖書の言葉を使わずに、自分の経験を語ってくださいました。全く生き方が変わったという彼の話は、自分の体験とつながり、気がつく、私も自分の状況—しんどくなっていることを洗いざらい話していました。すると、彼は、聖書の言葉から、その私のために、神様が御子イエス・キリストを十字架に架けて、罪の身代わりしてくださったことを説明してくれたのです。

私が神様から離れていた時も、神様はいつも私を見守っていてくださり、大切なひとり子をも犠牲にして、私がかの戸を開いてその愛を受け取るのを待っていてくださるのだ、と。

子どもの時から聞いてよく知っていた聖書の話が、はじめて現実の出来事として私に迫ってきました。(私のためにイエス様は十字架に架かってくださった。私が生きたために、イエス様が死んでくださった。)人目もはばからず、私は泣きました。日ごろからあまり感



情を表さず、まして泣くことなどみつもまないと思っていた私でしたが、この時は、涙が止まりませんでした。

—本当の意味での悔い改めの機会だったのですか。

眞鍋 ところが...、次の日からスッパリ変えられた、というわけにはいきませんでした。古い自分をひきずっていました。生きる希望が与えられ、信仰の道が示されたのに、そのように歩めない—葛藤の日々となりました。

とりあえず、必死で勉強しました。大学三年の終わりになっており、ゼミの先生に、このままだと卒業できない、と警告されたからです。幸い、大学二年の半ば頃までは結構まじめに授業に出ていたので、なんとか必要な単位を取り、卒業の目処が立ちました。

福祉施設への就職を希望し、精神保健福祉士の受験資格取得のため実習を受けた大阪の施設で働こうと思っていました。当時、この自省館に勤めていた友人から、求人があることを教えてもらいました。それで自省館を見学・実習して、働かせてもらうことになったのです。

—東京で心機一転というところですか。

眞鍋 はい。大阪を離れ、古い自分を捨てて、クリスチャンとしての歩みを始めることができました。

自省館での働きに就いてからは、毎日、真剣勝負です。また、大切なことを気づかされることも多くあり、先にも言いましたが、自分の弱さと向き合う日々です。泣きながら祈ることもよくあります。でも、神様はその弱さを用いてくださり、弱さの中でこそ御力を現してください、という聖書のすばらしい約束を支えにしています。

「主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われしました。だから...大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。...わたしは弱いときにこそ強いからです。」

(コリントの信徒への手紙 二 12章9、10節)

私の弱さを通して神様のすばらしさを伝えることができます。—本当に感謝です。

—ご結婚は何年前ですか。

眞鍋 四年前です。彼女は、私と同じく救世軍の伝道者の両親をもち、私の悩みや

葛藤をよくわかってくれる存在、土台を共有できる存在です。私が道を見失いそうになった時には、引き戻してくれれます。意見が違ったり、喧嘩したりすることもあります。二人とも立ち帰る所は同じなので、御言葉を読み、祈り合うことで、最終的には心を一つにすることができました。

救世軍に集う青年たちが霊的に成長する、という私のビジョンを共有する、すばらしい伴侶です。

それに、小隊でおこなった結婚式は、大阪時代の友達に、私がクリスチャンであることを知らせる良い機会になりました。誰一人そのことを知っている友達はいなかったのです。

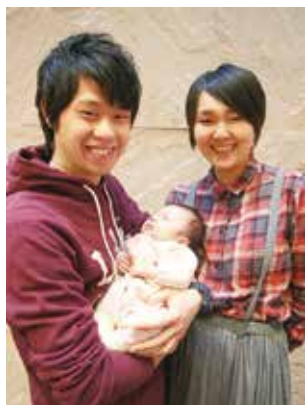
—今年の一月には第一子が誕生されましたね。

眞鍋 はい。女の子です。神様が与えてくださった命を大切に、温かいクリスチャンホームを築

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
- キリスト教についてもっと知りたいです。
- 『ときのこえ』の購読を申し込みます。

—ご氏名

—ご住所



裏、この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブレス 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン)

日本司令官 勝地

次郎 (救世軍本営 東京都千代田区)

http://www.salvationarmy.or.jp



救世軍とは

The Salvation Army

世界 127 の国と地域で活動する、プロテスタントのキリスト教会です。

1865年、イギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブレスによって始められ、貧しい人々、家のない人々、仕事に就けない人々、アルコールにおぼれる人々、搾取される女性たち、顧みられない子どもたち、災害に遭った人々……などに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。



日本での働きは、1895年に始まりました。伝道の拠点である小隊(教会にあたる)を開設し、^{はいよう}娯楽運動を積極的におこない、失業者対策、児童養護や女性保護、結核療養所の設立、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて人々の必要に^{こた}える様々な社会福祉、医療の働きを^も興してきました。

これらの働きの中でも、アルコール依存症者の回復支援は、救世軍がその草創期から取り組んできたものです。酒のために自分の人生ばかりか家族の生活をも狂わせてしまう、この病気からの脱出の道を提供する団体として、信徒たちは率先して酒類を^も捨らない生活を送っています。

日本では、『ときのごえ』や『禁酒のすすめ』(山室軍平著)、講演会などで酒の害を説いてきました。現在も、アルコール依存症者支援施設で、断酒と個別支援計画に基づく自立支援の働きをおこなっています。また、毎年、酒害強調週を設けて啓発に努めています。



今年は 4 月 3 日～9 日が
酒害強調週間です。

アルコール依存症者支援施設

● 自省館 (救護施設)

生活の場を提供し、回復のために、個別支援計画に基づく生活及び自立支援をおこなっています。 TEL 042-493-5374

● 男子社会奉仕センター

バザー場での作業を通して、身体的・精神的回復を図り、社会復帰できるよう支援しています。 TEL 03-5860-2992

救世軍バザーのご案内

● 救世軍バザー場

東京都杉並区和田 2-21-2 TEL 03-5860-2992
オープン 毎週土曜日 9～14 時
中野富士見町駅 (東京メトロ丸の内線) 下車徒歩 10 分

● 江東出張所

東京都墨田区太平 4-11-3 TEL 03-6261-5704
オープン 毎週土曜日 10～15 時
錦糸町駅 (東京メトロ半蔵門線/JR) 下車徒歩 10 分



新中古衣料、
雑貨など掘り
出し物多数

日用品配布ボランティア募集

4 月から 11 月まで、毎月 1 回、月曜日、街頭生活者の方に日用品配布をおこないます。詳しくは下記にお問い合わせください。
救世軍本営 社会福祉部 TEL 03-3237-0865



世界をみつめて

〈台湾〉台南地震の被災者支援

2月6日早朝、台湾でマグニチュード6.4の地震がありました。地震の震源は、台湾南部にあたる高雄市。台南市では、震度5を記録し、いくつかのビルが倒壊。電力供給に障害が生じ、給水本管が破裂しました。翌月曜日の8日は、台湾の正月にあっていたため、台南に滞在していた多数の人が巻き込まれ、117人が死亡し、500人以上が負傷しました。

救世軍の台南小隊(教会にあたる)も被害を受けましたが、小隊のメンバーはすぐに避難所を訪問し、その後は、他の教会(中国クリスチャン福音同盟)の協力を得て、被災者に支援金を提供しました。また、病院にいる負傷者や、地震で死亡した方の遺族を訪問しました。



〈フィジー〉フィジー史上最大級のサイクロン

2月20日夜、南太平洋の島国フィジーを超大型サイクロン「ウィンストン」が襲いました。人口約90万人の9割の人々がこのサイクロンの被害を受けています。これまでに44人の死亡が確認されており、いくつかの村が完全に破壊され、複数の学校や診療所、2つの病院が深刻な被害を受けているとの報告がなされています。家屋の倒壊や作物の被害も甚大です。



救世軍の小隊も数箇所被害を受けていますが、2月25日現在、10箇所の小隊でホールに避難所を設置し、被災した住民を約100人受け入れています。また、ニュージーランド援助プログラム(MFAT)の資金によって、被災者の支援をしつつ、マットレス、防水シート、発電機、スコップ、一輪車、チェーンソー、保護服などの緊急支援物資の準備をしています。さらに、建物の再建などに対する支援も検討しています。

世界の救世軍の指導者

アンドレ・コックス大将を迎えておこなわれる

2016 救世軍全国大会

集会のご案内

◆ 救世軍チャリティーコンサート

10月21日(金) 18:30
東京オペラシティ コンサートホール
(東京: 初台駅下車)



◆ 公開集会

10月22日(土) 14:00
日本教育会館 一ツ橋ホール(東京: 神保町駅下車)

◆ パレード 救世軍ブラスバンドとタンバリン

10月22日(土) 17:00
東京: 神田神保町界隈

◆ 大会聖別会 (礼拝)

10月23日(日) 10:00
日本教育会館 一ツ橋ホール

公開集会と大会聖別会には、
どなたも参加できます。
ご家族、お友だちお誘い合
わせて、おいください。

音楽ゲストーアメリカ西部スタッフ・ソングスターズ

印刷所 救世軍本営
〒101-0051 東京都千代田区
代表者 勝地 次郎
印刷兼 齋藤 恵子
編集人 齋藤 恵子
電話 東京(03)三三七〇八八一
発行所 救世軍本営
〒101-0051 東京都千代田区
代表者 勝地 次郎
印刷兼 齋藤 恵子
編集人 齋藤 恵子

発行日 毎月一日・十五日
定価(今号より) 1日号は値下げ
1日号 一部四〇円(六六円)
15日号 一部六〇円(六六円)
クリスマス特集号(十二月一日号)
一部一〇〇円(七七円)
一年分 二六〇円(送料七五円)
振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

(取扱支部)
救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。